

計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨
2. 計画の性格と構成
3. 計画の名称
4. 計画の期間
5. 津山市の現況

東小1年 押目 真季さん



1. 計画策定の趣旨

津山市は、平成7年度（1995年度）に平成17年度（2005年度）を目標年次とする「津山いきいきプラン21」（津山市第3次総合計画）を策定し、「歴史学習文化都市」「交流拠点都市」「健康福祉都市」「安全快適環境都市」の4つの都市像を目標に掲げて、計画的、総合的にまちづくりを進めてきました。

この間、本格的な少子・高齢社会の到来による人口減少社会への移行、国際化や高度情報化の進展、環境問題の深刻化といった社会経済構造が大きく転換しています。また、市町村合併の進行や地方分権の進展により地方自治体を取りまく環境も変化しており、市民生活や地域社会の広範な分野において、これまでにない新たな状況に直面しています。

本市は、平成17年2月28日に「加茂町、阿波村、勝北町、久米町」との合併により、新生「津山市」としてスタートしました。新市の速やかな一体化を図り、すべての市民が誇りを持って暮らせる新たなまちづくりを進めるとともに、県北の中心都市としてさらなる躍進を遂げていかなければなりません。

この総合計画は、今後10年間の市政運営の指針として、市民とともにめざすまちの姿を示し、その実現のための基本的な考え方や具体的な施策を体系化することにより、総合的・計画的な都市経営を図ろうとするものです。

計画の策定にあたっては、市内全地域での地区別懇談会や分野別懇談会を重ね、パブリックコメント（注）を行うなど広く市民の意見を取り入れるよう努めました。

2. 計画の性格と構成

総合計画は、それぞれの時代において直面する課題を的確に踏まえ、都市像を示し、その実現のための基本的な考え方や施策を総合的に体系化した計画で、「津山市経営の最高方針」となるものです。

この計画は、「基本構想」「基本計画」及び「実施計画」により構成し、基本構想は、計画の目標年次におけるまちづくりのビジョンを示すものです。

基本計画は、都市像の実現を図るための基本的な施策を分野別に示したものであり、実施計画の指針となるものです。

実施計画は、基本的な施策における事業内容を年度別に明示し、毎年度の予算編成の具体的な指針となるものであり、本計画書とは別に策定します。

3. 計画の名称

「津山市第4次総合計画」

4. 計画の期間

基本構想、基本計画は、平成18年度を初年度とする平成27年度までの10ヵ年計画とします。

また、実施計画は前期・中期・後期計画とし、前期計画は、平成20年度までの3ヵ年計画とします。



5. 津山市の現況

(1) 位置と面積

本市は、岡山県北東部に位置し、北は鳥取県、南は中部吉備高原に接する位置にあります。

近くの都市への距離は、南は岡山市へ約60km、北は鳥取市へ約75km、東は姫路市へ約90km、西は新見市へ約75kmで、山陽と山陰の主要都市のほぼ中間にあります。また、大阪市へは約160km、下関市へは約390kmで、中国縦貫自動車道を利用してそれぞれ約2時間、4時間30分の位置にあります。

面積は、昭和4年（1929年）の市制施行当時38.5km²でしたが、現在506.36km²となっています。

(2) 地勢と自然

地勢は、市街地から中国山地まで約1,000mの標高差を有していますが、おおむね平坦で、市街地の中央部を岡山県三大河川のひとつ吉井川が貫流しています。

気候は市の北部で年間平均気温11～12℃、年間降水量約2,500mmと日本海側気候に近く、中南部で年間平均気温13～14℃、年間降水量約1,500mmと太平洋側気候となっています。

(3) 沿革

本市は、713年（和銅6年）美作国が設けられ、国府が現在の津山市総社に置かれた時から県北の中心地域としての歴史が始まりました。この地域は、古代国家の時代から江戸時代を通じて、重要資源である鉄の産地として各地域との交流が盛んであり、また、出雲と大和を結ぶ往来の要衝として発展してきました。

1603年（慶長8年）森氏が美作全域18万6千5百石の領主として入封し、津山城と城下町の建設に着手しました。この城下町の形成により、この地域は県北の政治、経済、文化の中心性を強め、現在の本市発展の基礎が築かれ、以後、森氏四代、松平氏九代の藩政が続きました。

明治時代に入って、明治4年（1871年）の廃藩置県により、津山県、北条県と受け継がれ、明治9年（1876年）岡山県に合併されました。そして、明治31年（1898年）の中国鉄道津山口・岡山間の開通、大正12年（1923年）の津山駅までの延長、昭和11年（1936年）の津山・姫路間の開通などがあり、現在の中心地が形成されるに至りました。

昭和4年（1929年）の2町4村合併により、津山市として市制を施行しましたが、当時の人口は、33,361人、面積は38.5km²でした。その後、鉄道の開通、上水道施設の建設、教育施設の拡充、商工業の進展などと相まって周辺町村を合併し、市域の拡大が図られるなど、地方都市として着実に発展してきました。

昭和29年、30年には近隣の町村と合併し、人口も80,883人（国勢調査）、面積は185.6km²となりました。しかし、昭和30年（1955年）代の高度経済成長期に入り、若者を中心に人口の流出が続き、昭和40年（1965年）頃まで過疎化が進行しました。

このような状況の中で、昭和50年（1975年）に開通した中国縦貫自動車道は、本市の長年の懸案であった内陸工業の立地をはじめとする社会経済上の諸活動の展開を可能とし、本市の情勢を一変させました。市内の工業団地への企業立地の進展、商業・サービス業の活発化や若者の定住志向などにより、人口も増加を続けてきました。

平成17年2月28日には、加茂町・阿波村・勝北町及び久米町の区域を合併し、人口111,499人（平成12年国勢調査）面積は506.36km²を擁する岡山県北最大の中心都市として、今後より一層の躍進が期待されています。

林田小2年 山さき 晴かさん

